大草谷津田いきものの里 自然観察会

かっこいいぞ！オニヤンマ

山岸 文子（千葉市）

日　　時：2016 年 8 月 7 日（日）10：30～12：00　　天気：晴
参　加　者：23 名（大人 14 名、子ども 9 名）
担当指導員：木下順次、山岸文子

初めての参加という親子連れが殆んど。市政だより等でお願いしてあるにも拘らず、帽子・長靴をきちんと着用した人は少ない。ここは野生生物を大切に守っている場所であって、人の為に便利に作られた都市公園とは異なる。危険生物も多いので、この場所に相応しい服装や心構えが必要になる。観察路以外に立入る事はできないし、外から生き物を持ち込む事も外へ持ち出す事もできない。スズメバチが飛来した際の注意事項も併せて説明する。

陽の当る入口広場の気温は 34℃。木陰を少し歩くと 29℃に下がった。セミの抜け殻、オオヒラタシデムシ幼虫、センチコガネ、ノコギリクワガタは観察ケースに入れて、「皆で見ましょう」トホシテントウ、セミヤドリガに寄生されたヒグラシ・・・さながら、子ども達の虫探し大会になってしまって林内をなかなか抜け出せない。本日のお目当てのトンボを見ましょうと、急がしながら進む。田んぼの近くのジャコウアゲハは下見のとき幼虫だったが、蛹になっていた。

シオヤトンボ、シオカラトンボ等を捕虫網で追いかけた後、今朝捕獲しておいたオニヤンマを見て貰う。「大きいね」と声が上がった。小さなバッタを食べる様子を観察した後、トンボの持ち方を説明して交代で翅を持ってみる。林縁の木の幹にオニヤンマのヤゴの抜け殻。大人の背丈程の高さで「あんなに高い所まで登って羽化するの？」と驚いた様子。ちょうど飛んで来たオニヤンマを網で掴まえた 2 年生。オオモンクロクモバチがクモを運んでいるのに興味津々の親子。「近くに住んでいるのに、こんなに良い処があるなんて知らなかった」と。

最後のお楽しみはザリガニ釣。大人も子どもも夢中になった。

お昼近くになったので、まとめの話。＜アメリカザリガニが増えている為に、ヤゴが食べられてトンボ類の数が減っている事。昔からここに棲んでいた生き物のバランスが崩れかけている。たくさんの生き物が暮らしていける場所であり続けて欲しい。＞

ザリガニの居た水路に小さなエビが泳いでいるのを参加者が気付いた。恐らく誰かが放したのだろう。本来ここに居なかった生き物を連れて来る事が恐ろしい結果をもたらす。かつてカダヤシを放流された事があって、完全に駆除する迄 2 年近くかかった。駆除する為に沢山の水生生物が犠牲となってしまった。

エビを県立中央博物館で見て頂いた処、「外来種で外国の文献を調べないと判らない」というお話。生物多様性の大切さを参加者に理解して頂く為の自然観観察会なのだが‥。